

豪雪で埋もれた、人の心を掘り起こす！



2月1日 南空知支部災救隊 三笠市で除雪のさしん



ひきよせ

発行所
天理教夕張大教会
〒068-0029
北海道岩見沢市9条西6丁目
☎ 0126-22-1248
FAX 0126-23-7275
yubaridai146@gmail.com

ホームページ
bariten.main.jp



LINE 友達登録
お願いします

貴方への手紙 (322)

今年は2月2日が節分。3日が立春。2月初旬は一番気温が下がる季節ですが雪が解ける日も増えてきます。日は長くなり確実に春に向かっていきます。

ところで旧正月は2月で、中国、台湾、韓国、ベトナムでは2月11日頃から春節のお祝いです。例年なら北海道にも観光客が多い季節。札幌雪まつりは例年通りの開催はできずネットでのオンライン開催とか。

どの国でも新型コロナウイルスの収束に向けて躍起になっています。ワクチンと治療薬の研究が異常な早さで進んでいるようです。2月中旬から日本でもコロナ対応の医療従事者にワクチンが接種されます。3月にはその他の医療従事者300万人以上。4月には高齢者3000万人、施設従事者などへと優先的にワクチンが接種され順次全国全体に及ぶようです。7月頃には感染が下降線を辿ることを期待していますがどうか。

お知らせ

二月月次祭 2月15日 9時30分開扉献饌
祭典の様様をライブ配信します。
三月月次祭・春季霊祭 3月15日
道の学生オンラインの集い 3月28日 10時30分

さてオリンピックはできるのでしょうか？お互いに関心があることと思いますが私は無観客でも開催されるのではないかと思います。問題はどれぐらい観客を入れて開催できるかであります。

さすがにオリンピックに比べると話題は小さくなりますが9月4日の6代会長就任奉告祭がどのように挙行されるかは大きな関心事であると思います。

奉告祭で大事なことはおつとめ。感謝と誓いを込めた一手一つのおつとめを勤めることです。皆さまにどれくらいご参拝いただけるか、無事その日を迎えられるようコロナ禍の収束を願い、毎日のおつとめに祈りを捧げております。

先人のご苦勞を偲び信仰の「元一日」に帰り、「一歩前進」を誓う旬です。

この旬、老いも若きも今よりおたすけに前進できるよう、子どもや若い人に希望を持ってもらえよう願っています。

つらい中だからこそいつも以上に笑顔と感謝で人に優しく温かく、心をつなぐことを心がけたいと思います。

新しい時代になります。私も初心忘れず、日々新たな年の気持ちで毎日を過ごしたいと思えます。

お互いではありますが人生を送らせていただいているのですから愚痴や不平不満は言わないつもりですが、私もつい愚痴ってしまうことがあります。反省です。心の養いが足りないのです。もっとお話を聴いたり本を読んだり心の栄養をとらなくてはと思います。

日差しを浴びることの大切さについての記事を読みました。日光を浴びることによってビタミンDが体内に作られる。ビタミンDには免疫を調整する力があり、風邪やインフルエンザ、気管支炎や肺炎の発症や悪化の予防にも必要と言われています。火水風のご守護。お日様の力をいただきましょう！

春季大祭の様

この年末年始も北海道は厳しい寒さと雪に見舞われ、令和3年、立教184年の年明けは北国の醍醐味を存分に味わうスタートとなった。大教会のある岩見沢市を中心とした空知地方は雪の日が続く、連日除雪のひのきしんに来られる方もあり、雪と格闘する毎日であった。また大教会からも、近隣の高齢会長や無担任の、人手の足りない教会へ除雪のひのきしんに向う事も



幾度もあった。迎えた春季大祭当日、15日は前日より気温がグッと上がって、神殿の大屋根の雪が落ちる程の天気となった。開扉献饌のち祭文奏上。それから座りづとめ・

十二下りのてをどりが務められた。大教会長は講話で「大変な中ご参拝頂き、誠にありがとうございます。今年の春季大祭を思い返すと、まさかその後マスクを着用しておつとめをするようになるなんて思いもしませんでした。」

真柱様は昨年の11月の月次祭の後、少しお話をされました。どういった話かというところ『ふしはこれまでお道の歴史の中で大きなものもあった。しかし、我々は話には聞いていても、現実には味わっていない。今回がそれではないか、と。先人達も大きなふしを見せられて、それを乗り越えて来られた、私達も同じ様に通らせて頂く』という話でした。今年の1月4日には『私の体調もそんなに変わりませんが、大変な中皆さんが通り頂いている事とします。本当にありがとうございます』とあいさつされました。今年、コロナ禍にある我々が今後どうなっていくか、様々な研究、意見が飛び交っています。第三波がなかなか収まりを見せない中ですが、ワクチンの接種の段取りなど、具体的な話も進んでいるようです。今年はいつにも増して大雪です。年越し前の積雪は、災害ク



ラスだった9年前の豪雪の値を超えたそうです。しかし、今年

は年が明けてからはそれほどもなく済んでいます。9年前は年明けからも酷かった。1月15日を迎えても神殿の大屋根から雪が落ちず、2mもの雪が屋根に乗ったままです。それまで大屋根に登って雪を下ろしたことは記憶にありませんが、その時ばかりは心配になり、息子と二人で屋根に登り、一番上から雪を下ろしました。作業を終えて下に降りると、落とした雪が屋根より高くなっていました。今年6月に会長交代のお運び、9月4日に6代会長就任奉告祭を控えます。こんなご時勢です。この旬にこんなことをさせて頂く！と勇ましい事はなかなか言えないですね。それぞれが今ある状況に思案をして、心作りをしていてもらいたいと思います。人が集まって活動が出来ない中、こんな時だからこそ、お道の本や新聞を読んで頂きたい。

現在私は『陽気』の応援団をやっている、何とか購読者を増やそうと相談などをしていこうとします。その一環として、ユーチューブに陽気チャンネルというものを開設し、そこで各先生がためになる、前向きになれるようなお話をし、ネット上にアップしていきます。私も2回お話をさせて頂きました。機会があれば視聴して下さい。

奉告祭に向けて、真柱様ご夫妻・大亮様ご夫妻のご臨席をお願いしておりますが、この状況では確たる予定が立たない、という事です。来られるか来られないか、の判断はギリギリになつてしまいかもしれません。しかし我々はどういう形になつても良いように、しっかりと準備を進めていきたいと思っております。この旬に一手一々に、勇んで取り組んで参りましょう」と話された。

その後、梶川卓一・奉告祭実行委員長より業務連絡があり、今後の奉告祭への準備の進め方



について説明がなされた。また、先日行われたラグビー大学選手権にて悲願の初優勝を果たした天理大学ラグビー部の活躍に話は及び、熱戦を思い出して参拝場に喝采が起り、和やかな雰囲気であった。

暮らしと信仰

火の守護

厳しい寒波が全道を覆っていた1月17日、26回目となる阪神淡路大震災の犠牲者の慰霊の様子が、一日中ニュースで流れていた。もうそんなに経つたのかと思うと共に、火の守護にまつわる話を思い出した。

この地震では、余震が多く続いたために屋内で過ごすのを恐れられた人々が路上のたき火で暖を取る姿が多く見受けられた。一方で、神戸市長田区では倒壊した家が次々と燃え、焼け野原のようになっていた。火の有難さと恐ろしさを同時に見せつけられた災害であった。

当時の事を東灘区に住まう従姉がこう話していた。阪神高速道路の橋脚がバツタリと北側に倒れていたすぐ側の公園での話。従姉一家もマンションの6階の自宅では揺れが酷く、目の前の公園のたき火に寄っていった。その火のぬくも



昭和45年 第12回夏季練成会 三笠市桂沢湖にて記念撮影

先日、ある古い信者さんのお話となり、昭和30年代の頃の話となり、その方のご主人、4人の兄弟いとも皆、教会に何らかのつながりを今も持つていて下さっているが、その方々は、当時の会長（前会長）に手引かれて、夏休みに汽車に乗り少年会の練成会で、楽しい思い出等、辛かった、怖かった思い出等、

「楽しかった練成会」

夕張の礎・そのI
このコーナーは読者・夕張につながる皆様が、心の寄り処、思い出となっていることを語って頂くページです。六代会長奉告祭に向けて、写真や文で、どこに自分の夕張に寄せる思いの礎（もと）があるのかご披露して頂きたいと思えます。一回目は少年会から。直属ひのきしん、フェリーおちば帰り、婦人会バス団参など、文章をお寄せ下さい。



同上 人形劇披露中

同じように味わっていたということを知った。
（以下は私の小学校4年生の思い出）想定ハイキングという学校では習わない言葉の下に、各班の班長・6年生が、列の先頭に班の旗を立てて、神殿玄関前から裏の畑の方に進んでいく。畑にいる大人が、目印を探している私達ににやにやと笑っている近付いてきて「そこにも印があるぞ」と、木の枝で作った矢印↑を教えてくれた。客殿の庭に向かい、今度は石で↓という印、農業高校側の通りを南下して、



昭和50年第17回夏季練成会 裏庭で昼食

門に入る。そこから校舎まで真っ直ぐ50メートルはある。そこに目を奪われていると、橋の下から、ワーツと言っておじさんが出て来た。住み込みの各務さんだったか？
歩いていくと明らかに変な人が道端に座っていて近寄れないし、声もかけられない。ゾロゾロと通ろうとすると、驚かされて、どこか誰だ、どこに行くのかなど言われるが：怖い。
校舎の裏手に回ると、今度はポプラの大きな樹の影からとてつもなくでかい蔭が落ちてきた。キリンさんこと、西尾庄市先生だった。みんなで歌を歌えと言われ、前日、三十乃奥さんに教えられていた「ごんべさんの赤ちゃん」を恥ずかし気に歌った。子供ながら、なんでこの暑い時に赤ちゃんは風邪をひくんのだら

夕張団少年会ページ



LINE友達登録



→昭和52年 第1回おやさまたんじよう祭。翌々年より第1回少年会総会が開催された。



う？と思っていた。みんな次に何かあるのかワクワク、ドキドキして、班長に付いて歩いていった。
（藤崎）



りの有難かったこと。当時でもマンションに住む人は持ち運び可能な石油ストーブを使う人はおらず、電気もガスも止まった今、なすすべはなかった。ぬくもりをくれるたき火も、どこからか薪を持ってきて燃やしているものの、量は少なく、いつ火が消えるか分からなかった。
その時、公園の前の崩れた家から出てきた人が「どうぞ、うちを壊して薪を作って燃やして下さい」と言ったという。どれだけ住めない程壊れた家であっても、血と汗と家族の思いが染み込んで下さいと、なかなか言えない事である。「人をたすけて、わが身たすかる」教えに通じるなあ、と深く感じ入った話であった。
その後、その付近は防災のために区画整理がなされたという。当時は、薪を作るにも道具が無くて困ったようだ。現在ではこの震災の教訓を活かし、どの防災拠点にも必ずストーブや燃料、道具が揃えられている。

学生会からお知らせ

日頃は新型コロナウイルス感染症の困難な中にも、学生の活動のうえにご理解とご協力いただき、誠に有難う御座います。

立教184年の本年、毎年恒例となっており「春の学生おぢばがえり」はコロナ感染拡大防止の上から、おぢばでの密を避ける為、「道の学生おぢばがえり推進期間」と「道の学生オンラインの集い」といった行事に切り替えました。推進期間は2月1日から、3月26日まで。さらに少人数でのおぢば帰りをと学生担当委員会より推進いただきしております。夕張学生会いたしましたは公共交通機関を使わざるをえませんが、担当委員会が出来る限りの注意をしながら引率をさせていただきます。



19,春の学生おぢばがえり 校の前で

例年通りの帰参は難しい状況ですので、所属の会長さん又親御さんとよくご相談の上、お申し込みいただきたく存じます。何かと例年以上に大変な状況ですが、今後とも変わらずご理解とご協力賜りますようお願い申し上げます。

尚、帰参される学生さんへは、交通費を助成致します。ご相談は学生担当委員会富山(栗山分教会長)までお願いします。



19.3.28 詰所講堂で大教会長さんと

少年会 年頭幹部会 活動方針発表

1月27日、本部第2食堂にて育成会長、直属、教区の団長が集まり、立教184年年頭幹部会が開催された。内統領先生のお話の後、西田伊作委員長より本年の活動方針が発表された。

活動方針

『日々に陽気ぐらしを實踐し、その喜びを子供たちに伝えよう』

重点項目

『子供と一緒に 教会へ参拝しましょう』

『子供と一緒に ひのきしんをしましょう』

『子供と一緒に ひのきしんをしましょう』

『子供と一緒に ひのきしんをしましょう』

『さんさいりトルマガジンなどの教材を活用しましょう』

コロナウイルス感染防止の状況の中、具体的活動は一律に呼びかけず、『子供と一緒に』というワードが強調される項目を掲げ、その説明がされた。

続けて、今年のコどもおぢばがえりについて開催に向け準備していくことが発表され、状況を見ながら、決定事項をその都度発表する旨が伝えられた。例年よりもコンパクトな会場、状況に応じて縮小すること、そして、新おぢばがえりソング「ありがとう！夏のおぢば」の発表があり、ダンスが披露された。本年も子供たちの育成の上で共々に一手一つに励ませていただきたいと思えますと述べられた。

南空知支部災救援隊 除雪ひのきしん

南空知支部災救援隊で毎年行っている三笠での除雪ひのきしん。例年は三笠市の社協に一泊して行っていたが、コロナ対策で今年は1月17日と2月1日の二日、共に日帰り、シルバー人材などで手に負えない高齢者宅等で屋根の雪下ろし、除雪を行った。夕張からも教会長4名、青年会員4名の計8名が参加し、勇んで汗を流した。一時は9年前の大雪に迫る豪雪年だったこともあり、かなり大変だったとか。前日の1月31日と1日の作業後には、三笠と岩見沢の雪害の大きい教会の除雪も行った。



庶務部 1月

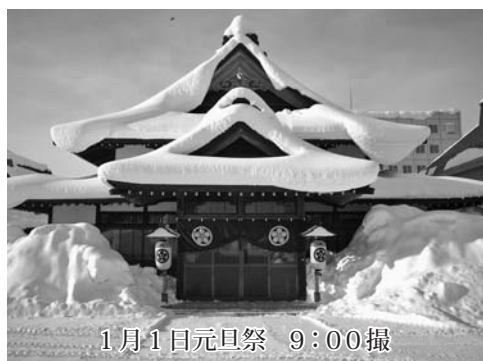
▽教人資格講習会・全期受講
梶川 雅代(新生) 1・27〜2・10

▽詰所ひのきしん
阿部 恭子(直轄) 1・1・2017

梶川 芳史(新生) 1・1・2017

大教会日誌抄 1月

- 1日 元旦祭
- 2日 年頭ネットワーク会議
- 3日 会長、おぢばへ〜7日
- 4日 会長、御本部年頭あいさつ
- 13日 大祭神饌買物
- 14日 大祭準備
- 15日 春季大祭
- 17日 支部災救援隊・除雪(三笠)
- 18日 会長、栗山分大祭
- 22日 会長、おぢばへ
- 24日 会長、御本部神殿当番
- 26日 御本部春季大祭
- 27日 遥拜式
- 31日 少年会本部年頭幹部会
- 12日 支部災救援隊・除雪〜1日



1月1日元旦祭 9:00撮